

【連載：「試聴室探訪記」第35回】

～谷口ともりの、魅惑のパノラマ写真の世界～
 ジャズ喫茶の老舗、一ノ関「ベイシー」を訪ねて
 フォトグラファー 谷口 ともり・編集委員 森 芳久

レストランの評価として有名なミシュランの星の数、一つ星から三つ星まで三ランクあるのはご存じの通りです。その星の数は、★★★（三つ星）はそのために訪れる価値のある卓越した料理を提供する店、★★（二つ星）は遠回りしてでも訪れる価値のある素晴らしい料理の店、★（一つ星）はそのカテゴリーで特に美味しい料理を提供する店、と定義されています。

今回訪問した一ノ関の老舗ジャズ喫茶「ベイシー」はこの星で評価するならば間違いなく★★★の評価となるでしょう。事実、一ノ関を訪れた方はもちろん、「ベイシー」を訪れるためだけに一ノ関に行く人が少なくありません。それは海外からのミュージシャンもまた同じです。彼らもまた、東京や各地の公演など忙しいスケジュールの合間を縫って、東北のベイシーを訪れているのです。それはこの店で提供される“料理”に相当する“音響”が卓越していることはもちろん、

主人つまり“オーナーシェフ”菅原正二氏の人を惹きつける魅力と言えるでしょう。

菅原氏は、根っからのジャズファンであるのはもちろんドラマーとしてもその道を究め、国内外の多くの演奏家達と親密な交友関係を持つこの道の達人です。また、「ステレオサウンド」誌に1994年から長期連載中のエッセイ「聴く鏡」の愛読者も多く、既に二冊の単行本として同誌より発行されています。そこには菅原氏のジャズまたオーディオや趣味にかける哲学と情熱が洒落な文章で語られています。

筆者もこの「ベイシー」には何度も訪れ、その昔CSテレビ番組で「ベイシー」と菅原氏をご紹介したこともありました。そんなご縁で、このコーナーでもJASジャーナル読者の皆さまに、谷口ともりさんのパノ



ラマ映像でご紹介できる機会を狙っていました。

今回、菅原氏のご好意でその機会を得ることができ、「ベイシー」を皆さまにご紹介できることとても嬉しく思っております。

さて、まずは菅原氏の経歴とベイシーの歴史を簡単にご紹介いたしましょう。

1942年岩手県一ノ関で生を受け、高校時代にはブラスバンドでトランペットに興じその才能を開花させていた菅原少年は、進学は早稲田大学と決めていました。そこには多くの名ジャズプレイヤーを排出してきた、ハイソサエティ・オーケストラがあるからでした。「勉強より兎に角ジャズを演奏したい」この思いで3年間の浪人生活をしてまでも早稲田を目指したのです。もちろん、この情熱と努力で晴れて早稲田の門をくぐることとなります。菅原氏と同じ思いで早稲田に入学したジャズファンは他にもいます。タモリもまた菅原氏の一級下として入学しているのです。

しかし、19歳の時に肺を病んだ菅原氏は後にトランペッターを断念、ドラマーとして道を歩むこととなります。その大きな切っ掛けとなったのは1963年5月にカウント・ベイシー楽団が来日した時のことです。菅原氏はその公演を聴きに行きソニー・ペインのドラムを聴いて「これだ」と思ったのです。そしてドラマーになることを決意したのです。そこで才能を開花させた氏はバンドリーダーとして楽団を率いて初のアメリカ公演を成功させます。メンバーにはベーシストで作曲家の鈴木良雄などの錚々たるメンバーが加わっていました。



菅原氏愛用のドラムセット。舞台の前にセットされいつでも演奏可能

その後、チャーリー石黒に呼ばれ東京パンチョスと演奏したこともあり、そのキャリアにも磨きがかかっていきました。だが、菅原氏は1970年ドラマーを廃業することを決意したのです。そして「やる事が無いからジャズ喫茶でもやるか」と思い立ちジャズ喫茶「ベイシー」を開業します。これもまた菅原美学なのでしょう。

以来「ベイシー」はその店主の奏でる“音響”と“個性”を売り物として半世紀近くを経た今日までその魅力を維持し続けています。



常連客の寄付による椅子の革の張り替え
(真鍮プレートに最頂ミュージシャンと寄付者の名前が刻印されている)

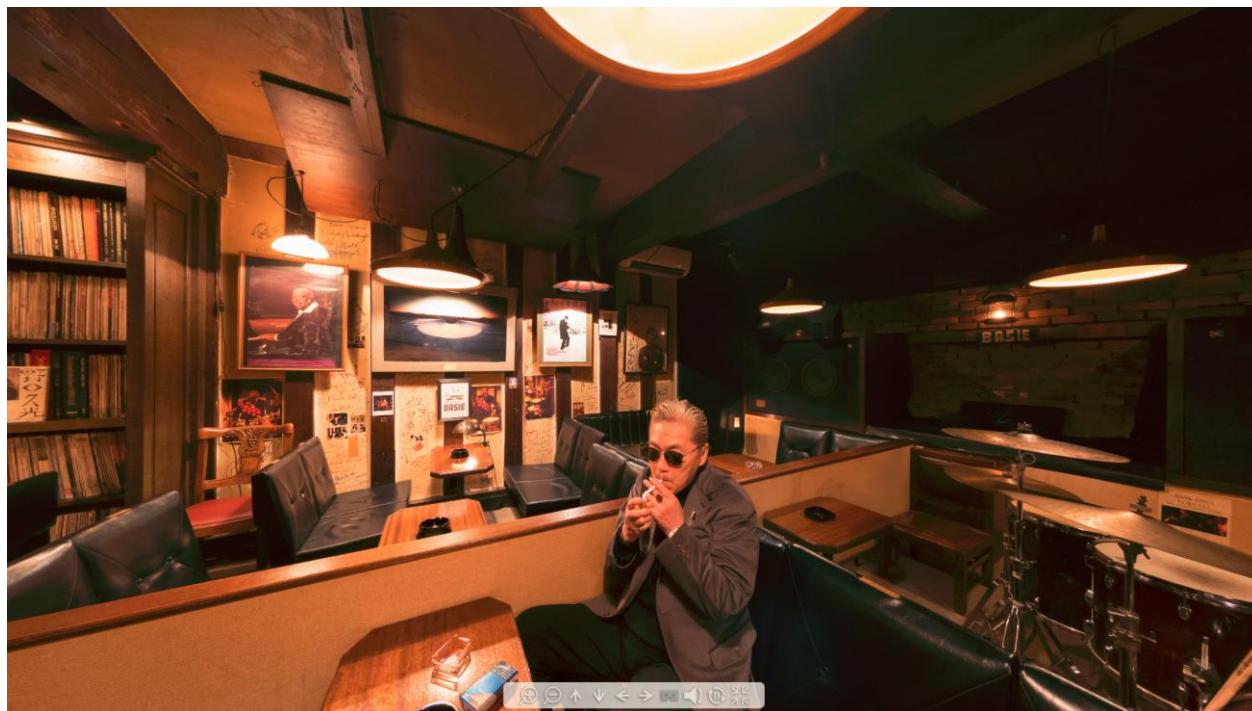
スピーカーやアンプなどはJBLで固められ、プログラムソースはもちろんLP盤のみです。カートリッジは一貫してShureV-15 type IIIがメインであるのも店主の拘りです。そして「ベイシー」が誇るそのプログラムソースの量も半端ではありません。「全部で何枚位あるのですか？」との質問に、「枚数は判りません。しかし野口久光先生から頂いた遺産のレコードはその運搬業者からの伝票に20トンと記載されてましたのでトータルでは25トン位はありますよ」との応えが返ってきました。

それでは、今回もまた谷口マジックによる魅惑の映像の世界を存分にお楽しみください。部屋を巡りながら、要所要所をズームアップしてご覧頂ければ、店内に何気なく置かれている物、そしてディスプレイされている物など、菅原氏の人生と趣味が浮かび上がってきます。著名演奏家

たちのサインの数々、そして菅原氏が愛用していたトランペット King Super 20 なども発見できるでしょう。

菅原氏は開店前に何時も自分の指定席である椅子に舞台に背を向けて座り、まずはタバコに火をゆっくりと付け一服します。

さあ、今日も「ベイシー」の開店です。



パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、ここか、はじめのページ画像をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
 - マウス操作で、画面を上下・左右 360 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
 - 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
- + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向へ移動 画面の上方向へ移動
 - ↓ 画面の下方向へ移動 画面の下方向へ移動